

【第3回 コミュニティ訪問】

ITアーキテクトコミュニティ

コミュニティ訪問の第3回目は、ITアーキテクトコミュニティの今村座長にインタビューしました。

—ITアーキテクトコミュニティは、ITアーキテクトを業界に増やしたいという横塚会長の思いからコミュニティが開設されました。ITアーキテクトとはどんな人でしょうか。職種の一つですか？

ITアーキテクトという肩書きを設けている会社は多くはありませんが、一言で言えば、ITシステムの設計士的存在です。参加各社では、基本的にはITSSに準拠したスペシャリストとして位置づけられているようです。技術の専門家としての役割を期待されるばかりでなく、プロジェクトマネージャーに近い役割を期待される場合もあります。



—座長（今村さん）のJISA活動のきっかけは？

私の所属は生産技術センターという部署で、ITアーキテクトを育成して自社の技術を伸ばしていく必要があります。ですから実務的な視点でITアーキテクトとは何かという問題意識から参加しています。

—どのように活動されていますか。座長として心がけられていることは？

活動は各社のITアーキテクトの位置づけや活動内容を発表することから始めました。現在は、できるだけ全員参加になるように、発表者の経験に基づいた問いを投げかけて、ディスカッションするスタイルで運営しています。このスタイルを採ることで、ITアーキテクトとして仕事をしていく中での悩みや知識の共有ができるだろうと考えています。

◇コミュニティ概要◇

座 長：今村大輔さん（東芝デジタルソリューションズ(株)生産技術センター センター長）

人 数：24名 活動頻度：月1回

参加のお問い合わせ先：koubo@jisa.or.jp

—運営上の悩みはありますか？

もっと若い人に参加してほしいです。自社だけでITアーキテクトを育てるのは簡単ではないので、業界として育てる一助となればと思います。そのために、魅力あるテーマを設定し、気軽に参加できる環境を作ることが必要だと考えています。

—今後の活動の方向性についてご意見をお聞かせください。

参加している皆さんの意見を伺いながら、現場の目線で人材育成と技術トレンドの両方で気づきを得る場として位置づけたいと考えています。活動当初は、管理職の方の参加が多かったのですが、徐々にライン部門で実務を担当なさっている方の参加が多くなってきていますので、実務に即した議論ができるのではと思います。

—読者へのメッセージをお願いします。

「デジタル時代のITアーキテクト」というタイトルで、2月22日にセミナーを開催します。講師には、アーキテクチャ策定のコンサルティング等を手掛けていらっしゃる森屋英治様（(株)アークウェイ代表取締役）をお招きします。

セミナーを開催しようと思ったのは、コミュニティの議論のテーマにマイクロサービス・アーキテクチャやDevOpsの実践といったトピックが上がっており、有識者の方の話を聞いてみたいのと、コミュニティの認知度を上げて若い人に参加してもらうきっかけを創りたいということからです。

アーキテクトは、特定の技術にだけ詳しい存在ではありません。技術を横断して切磋琢磨する場として活用してもらえたらと思います。

この記事を読んで興味をもたれた方がいらっしゃれば、是非コンタクトしてみてください。



↑ ディスカッションを重視する運営を心がけています

— 技術的な悩みを共有し、
気づきを得る場にしていきたい

◇コミュニティ参加企業◇

(株)インテック／NECソリューションイノベータ(株)／NCS&A(株)／エプソンアヴァシス(株)／
(株)コンピュータマネジメント／さくら情報システム(株)／(株)シーエーシー／(株)シー・エス・イー／
情報技術開発(株)／(株)中電シーティーアイ／TIS(株)／東京海上日動システムズ(株)／
東芝デジタルソリューションズ(株)／日本テクニカルシステム(株)／リコーITソリューションズ(株)／
(株)リンクレア